

平成29年5月19日

# 第1回 南相馬市総合教育会議

南 相 馬 市

## 第1回 南相馬市総合教育会議 会議録

- 1 開催日 平成29年5月19日(金)
- 2 場所 市役所 東庁舎2階 第1会議室
- 3 会議時間 開会 午後 1時30分  
閉会 午後 2時30分
- 4 出席者

市長	桜井 勝延
教育長	阿部 貞康
教育長職務代理者	大石 力彌
委員	高野 恵以子
委員	渡辺 金作
委員	濱須 弘仲
- 5 欠席者(0名)
- 6 説明のため出席した者の職氏名

(復興企画部)			
復興企画部長	長塚 仁一	次長兼企画課長	牛来 学
企画係長	藤原 道夫		
(教育委員会事務局)			
教育委員会事務局長	木村 浩之	次長兼教育総務課長	庄子 まゆみ
課長補佐兼総務係長	武田 智芳	教育環境創造担当係長	志賀 和浩
参事兼学校教育課長	志賀 英司	参事兼指導主事	松本 浩一
主幹兼課長補佐	戸浪 誠	幼児教育課長	新妻 由美子
- 7 傍聴者(3名)
- 8 本日の会議に付した協議事項等
  - (1) 学校適正化に係る基本的な考え方について
  - (2) いじめ問題対策委員会の活動経過について
  - (3) その他

【配布資料】 別添のとおり

  - 資料1 南相馬市公立学校適正化に関する基本的な考え方(素案)
  - 資料2 学校適正化に関するアンケート調査の概要
  - 資料3 南相馬市公立学校適正化計画策定スケジュール
  - 資料4 いじめ問題対策委員会の活動経過

午後 1 時 3 0 分 開会

企画課長

皆さん、こんにちは。

定刻になりましたので、只今より平成 29 年度第 1 回南相馬市総合教育会議を開催したいと思います。本日、進行を務めさせていただきます、企画課長の牛来です。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、桜井市長よりご挨拶申し上げます。

市長

皆さん、こんにちは。平成 29 年度第 1 回南相馬市総合教育会議開催にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

委員の皆さんには、本当にお忙しい中時間を作っていただき、心から感謝申し上げます。協議内容については、皆さんにお配りの通りでありますけれども、私としては、いじめの問題ひとつをとって、象徴的にそれを議論する問題ではないのではないかと考えております。子どもたちがこの地域に生まれ育ち、そしてここが自分の心の財産になるような地域にしていかなければなりませんので、子どもたちがここで苦しむような状況というものを出るだけつくりながら努力をすると同時に、逆にここで育ったことが自分の財産になるという地域にしていかなければならないと考えております。そういう意味で、今回の協議内容の学校の適正化に係る考え方であるとか、先ほども申し上げたいじめ問題の状況ということは、議論はしつつも両方ともある意味では共通した問題だというふうに思っております。皆様方の忌憚ない意見を頂きまして、よりよい子どもたちの教育環境、そして地域のまちづくりとしての素晴らしい環境に寄与する事になればいいと思っておりますので、皆様方のご協力ご指導を宜しくお願い申し上げます。以上を申し上げまして挨拶と致します。宜しくお願い致します。

企画課長

続きまして、出席者の紹介でございますけれども、お配りしております次第の裏面に記載のとおりであります。こちらをもって紹介に代えさせていただきますのでご了承のほどよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項に入っておりますが、南相馬市総合教育会議設置要綱の第 4 条第 1 項の規定によりまして、これより市長が議長となって進行することになりますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日の会議につきましては、時間の関係上 2 時 3 0 分までとしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは市長よろしくお願いいたします。

市長

それでは暫時の間、進行役として進めさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、企画課からもございましたとおり、時間が 1 時間と限られておりますので、時間内に終了できるように皆さんの意見も率直に出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは早速であります。協議事項(1)学校の適正化に係る基本的な考え方について、教育委員会教育総務課から出されておりますが、事務局から報告をまずいた

だきたいと思います。

(教育総務課長 説明)

市長

適正化に関するスケジュール感と検討委員会の内容について7ページでまとめられたことについて、報告を受けたわけですが、皆さんからこの点についてまずご意見等がありましたら、積極的に出していただきたいと思います。

渡辺委員

今、課長からお話をいただきました学校適正化の考え方、その趣旨については、私はそのような考え方で進めていただけたらいいかなと思っております。

まして今、まだまだ帰還に伴い子どもたちの数が少ない現状にあって、これから子どもたちも少しずつ戻って来て、学校教育の環境というものも少しずつ変わって来るかなということを私としては期待しておりますので、その辺はここにもありますように、保護者や地域住民と共有をしながらこれから進めていくというのが一番よろしいのではないかなと思っております。

市長

今まで、私が就任した直後に真野小学校の問題が指摘され、いろいろと地域でも議論になった時期があったんです。ところが、平成23年に大震災がありまして、一挙に一番数が多かった烏崎地区、大内地区が大打撃を受けて、ほぼあそこの地域が減少してしまうということから、真野小学校を閉校して鹿島小学校に統合するという形を取りました。

それに加えて、仮設校舎で学んでいた小高の小学生たちが、小高小学校に戻って4つの学校が一堂に会して勉強している姿が見受けられるわけですが、これも小高小学校に4校の校名を掲げてやっているということは、地域の皆さんの理解というものもしっかり得ていかなければいけないという思いがあって、子供たちも入学式では全ての校歌を歌うというような状況になっているわけです。多分こういうことが地域とのコンセンサスをしっかり作っていく上では必要なんだろうと思います。

こういう流れを受けて、高野委員はいかがでしょうか。

高野委員

私事ではあるのですが、私の子どもが鹿島小学校に通ってしまっていて、3月で卒業しました。卒業にあたって、6年生から思い出に残ったことなどを発表する機会があったんです。そのときに、真野小学校出身の児童たちのほとんど全員が、鹿島小学校に来て良かったと言っています。それはどうしてかということ、友達がたくさんできたことほとんどの児童が言っていたので、それを聞いて真野小学校はなくなってしまいましたが、子どもたちにとって教育環境としては良かったんじゃないかなと思いました。

やはり学校は子どもたちにとっての小さな社会なので、社会性とか友達との人間関係とかを養うためには、ある程度の人数が必要なのかなと思うので、真野小学校の統合は良かったんじゃないかなと、私は思いました。

市長

かつては渋佐にも分校があって、大甕でも堤谷に分校があったんですが、いずれ時

間軸とともに統合されて、今の話のように真野小学校が結果として鹿島小学校に統合されたということになっているのですが、やはり皆さんの納得感が重要ですよ。大石先生いかがでしょうか。

大石教育長職務代理者

そうですね。他の地区ももちろんそうでしょうが、特に小高の場合、現在4つの学校の児童たちが一か所に集まって、実質一つの学校のような形態でもろもろの動きをやっているわけです。ただ、私は鳩原だとか、金房だ、福浦だというのは、少しは意識の中にあるかも分かりませんが、実際今の生活を1年、2年と続けていけば、みんな一緒という思いは、親のほうにも出てくるのではないのでしょうか。だから他の地区の適正化云々の問題と一緒に絡めて、小高統合というものも、もう目の前に来ているのかなという思いでいます。

市長

小高全体を見たときも、震災で東部地区が圧倒的に津波でやられてしまって、一方で西部地区は原子力発電所の事故で放射能の拡散があって、線量が高くなったということで、温度差が非常にあったのですが、みんなが避難を指示されて避難地域になってしまったということで、小高全体としてはいろんな災害の違いはあっても、避難という境遇にさらされて、仮設校舎で勉強して、今ようやく戻れるようになって統合している。まちづくりの視点からすると、あれだけ希薄化してしまった地域をどういうふうに立ち直していくかといったときに、地域の皆さんにとっては学校が一定の求心力を持って、今回の解除も、学校再開によってまた質的に変わってきているというふうに思います。小学校があり、中学校があり、また幼稚園が再開し産業技術高校が開校してということで、小高にとっては学校が一つの求心力になっているなど。

これが仮に福浦小学校があり、金房小学校があり、小高、鳩原があるとすると、多分今の状況では散り散りの形になってしまう。今の形は最低限のまちづくりとしても重要なのかなと思っています。

これから、例えば太田小の児童数の問題とか石神一小の児童数の問題とか、具体的にまた数からいうと厳しい状況ですよ。なので、多分こういうことも議論の俎上には乗ってこざるを得ないと思うのですが、改めて学校の規模感についても議論していかないといけないんじゃないかなと思います。濱須委員いかがですか。

濱須委員

1ページの児童数の推移を見ますと、震災前から比べると小学校で46%くらい減少し、半分くらいになってしまっている。事実上小高小地区については統合されたような形の中で、子どもたちは授業を受けているという環境になると思うのですが、言ってみれば変則的な部分でもあろうかと思うんでよね。それぞれの4つの小学校が机を並べて一つの学校であるという問題は、もう震災後7年目を迎えているので、早く解消して一つの学校としてとか、いろんな形で進めていくべきものというふうに思っています。

同じように今市長からお話がありましたけれども、原町区であるとか鹿島区であるとか小規模学校の中では、やっぱり小高地区と同じような問題を抱えているということなので、相当いろんな議論は必要かと思いますが、一定のスピードと目標的なタイムスケジュールを決めて、そういう方向性で進めていって子どもたちが早く新しい教育環境の中で勉強とか運動に励めればいいなと思います。

市長

南相馬の例ということでは全くないのですが、相馬でも今年から玉野地区がスクールバスで通うような状況になっていますし、全体的に急激なことではなくて、今おっしゃったようにスケジュール感というのもある程度見据えて地域の皆さんとの話し合いというのが必要になってくると思います。教育長はどうですか。

教育長

合併前の小高町の時代に、やはり鳩原小学校が児童数の減少によって複式学級を編成することになりました。その際に、地域に対して小高小学校あるいは金房小学校との統合の話をしただけしたら猛反対を受けまして、それからこれは言うては駄目なんだなという風になったのが合併前の小高町の話でした。

今考えると、複式学級編成になった児童数の減少、これは小高の4小学校はまたちょっと別にしまして、先程皆さんから話があるように、太田小学校、石神第一小学校の2校については既に複式学級編成の学校になっているわけです。そこからすれば、確かにこの時期にやっておかないと子どもたちが多くの友達と接する機会がなくなって序列だけついて、いざ中学校に行ってみたら自分は何て小さい人間だったのだろうと、がっかりするようなギャップが出てくるので、ある程度の適正規模、配置については、今後考えていかなければならないと思っています。

以前は国の基準で、小学校であれば4キロ、中学校であれば6キロという通学の距離での基準がありましたけれども、今は通学時間1時間という時間の考え方が示された関係もあって、それらも加味しながら適正な学校の規模、それぞれの地域での配置については、まずは地域の合意を得なければなりませんし、地域発信が有れば次に基づいて進んでいく必要があると考えておりますので、これで進めていきたいと考えております。

市長

ありがとうございます。

委員の皆さんの議論からすると、こういうスケジュール感、こういう考え方で進んで問題がないのかなと思いますが、それを受けて事務方で何か追加的に報告するようなことはないですか。

教育委員会事務局長

今、委員の皆さんからもございましたが、要点としましてはやはり地域の声を十分に聞くヒアリングを地域に入っていくことが大切だと思っています。そのために、平成29年度においても、各地区において要望等も聞きながら具体的に進めていく、そして出てきた意見というものを十分参酌して進めていきたいと思っております、一定程度まとめましたならば、皆様にもお知らせしながら進めていきたいと考えております。

市長

ありがとうございました。

そういう方向性については、皆さんよろしいでしょうか。よろしければ、スケジュール感の話が出ましたので、そういうこともしっかりと見据えた形での対応をお願いしたいということと、教育委員の皆さんにも適正化委員会の議論を適時報告していた

できればというふうに思います。

それでは、この協議内容について、考え方でしたけれども、報告、説明のあった方向性でよろしいですか。はい、ではそういう方向でよろしくをお願いしたいと思います。

大石教育長職務代理者

一つ教えていただきたいのですが、アンケート調査の概要とありますね、2ページのいちばん下、通学時間のところで、30分以内、1時間以内、1時間30分以内と区切ってあります。その上の区切りがないんですよ。これを入れておいてもいいのではないですか。

なぜならば問5を見ると、4キロ以内、6キロ以内、6キロ超でも構わないという内容との整合性、1時間30分以上でも構わないというニュアンスのものを入れるのが、アンケートとしては良いんじゃないかと思えます。これは問9にも関連します。

それから、中学校に関する質問では問6ですが、1学級あたりの児童数とありますが、中学校は生徒数という捉え方をしますので、直してください。その方が自然だと思います。

市長

ご指摘の点については、修正をして違和感のないようにして下さい。よろしいでしょうか。

続いて、(2)いじめ問題対策委員会の活動経過についてということで、今までの経過について報告いただきたいと思えます。

(学校教育課主幹 説明)

市長

今、事務局から報告いただいたわけですが、まず皆さんから活動経過について一覧表には出していますが、ご質問などあれば積極的に出していただいた方がよろしいのではないかと思います。

大石教育長職務代理者

活動内容のところ、教職員に対して2名ずつ、場合によっては3名というふうに聞き取りをやっているわけですね。これは、いわゆる今回のいじめ事件に関係する学年に関連した職員に絞っているという意味ではなくて、中学校の全職員を対象にして、その中から指名した教職員を聞き取りの対象にしているのか、それとも全員を順番ですべてやっているのか、それとも該当した学年とは関係ない教職員は外してあるのか。その辺はいかがですか。

学校教育課主幹

対象につきましては、28年度の全職員を対象として調査を行っております。3月中につきましては、3月に異動される学校の先生方を対象に調査を行ってまして、それ以降につきましては、学校の先生方、それから各委員のスケジュールを調整しながらそれぞれ調査をさせていただいております。

大石教育長職務代理者

そうしますと、聞き取りの中で、いろいろ細かいところまで聞かれているのだと思

いますが、前の教員に聞いた時の中身と、後から聞いた教員の中身で、ちょっとうまくいかないという部分も、場合によっては出てこないとも限らないと見ていたのですが、同じ職員が二度、三度となることもあるわけですか。

#### 学校教育課主幹

聞き取りの内容につきましては、どの委員が聞いても同じような質問の項目にはなっております。ただ、関係性の深い教職員の方につきましては時間を延ばしたり、もしくは別の日程を設けて再調査という場合もあります。

#### 渡辺委員

5月1日に、生徒への聞き取り調査に係る依頼文書を保護者宛に出されたわけですが、これは保護者全員から回答が得られたのでしょうか。先程の数字からすると、全員がこの聞き取りを了解したわけではないようですが、そこには保護者の方で何かうちの子は、こんな理由でやっぱり聞き取りには参加させたくないとか、何か理由があったのかどうか、その辺のところについて、答えられる範囲で結構です。

#### 学校教育課主幹

3年生の生徒は、先程申し上げましたとおり117名でしたが、アンケートを回収した枚数が102名分となっております。そのうち、協力者については85名ということで、その差につきましては協力出来ないという方、もしくは白紙で回答いただいた状況となっております。

#### 高野委員

生徒については、聞き取りはまだ全くされていないということですが、同意が得られた85名に聞き取りをするということで、同意が得られなかった方については今後まったく何も聞き取りはなされないということによろしいですか。

#### 学校教育課主幹

回答いただいていない方、若しくは協力出来ないという回答の方につきましては、聞き取りの方は行わないという方針です。

#### 市長

私からすると、きつい言い方をすると多分今までの経過等、報告とか新聞等の記事を読むと、多分前提に訴訟とか賠償ということがあるかもしれないというふうには想定できます。一番は、子どもたちの心を傷つけないという対応がまず必要だと思います。つまりいじめていたという報道がされていますが、いじめという言葉で本当に包含していいことなのか、どういう状況が起こっていたのかとか、そういうことをしっかりと出せばいいのであって、それを勝手にいじめと決めつけてかかるだけでは、問題は解決しないような気がしますので、是非子どもたちに心のケアというものをしっかりした上で対応していただきたいと思います。

学校の危機管理からすると、やっぱり私は、起こった時点で校長先生や担任の先生に任せるのではなくて、教育委員会なり市としても当然責任の問題が出てくる結果になると思うので、これはまったく危機管理なのですよ、あのような事件が起きてしまうということは。初動から始まって、危機管理体制の構築を事務局にお願いしたのですが、この事態・事件を踏まえて、マニュアル化して下さいねというふうに言ったと



思うのですが、生徒の問題と学校の危機管理の問題とは別なのですが、危機管理としてのマニュアル作成は至っているのですか。こういう事態が起きるということを想定してのマニュアル化をしておかないと、先生方だって大変だと思うのですよ。これから起きる可能性だっていっぱいある。別に自殺だけではなく事故だって起きる可能性があるわけだから、そのときの学校の危機管理体制というものを、マニュアル化しておいた方がいいということをもっと申し上げてきて、それは出来上がっているのでしょうか。

#### 学校教育課長

マニュアル化についてですが、この事態を受けまして、学校教育課から各学校にフロー図としてある程度マニュアル化したものを校長先生方に説明をしながら配布しております。その上で、教育課程の文言の中にも危機管理マニュアル関係等を入れるように各学校には指示しております。

#### 市長

出来ているとすれば、教育委員の皆さんにもそれがしっかり資料として渡るようにして欲しいし、我々の所にも初動についてどう対応するかということをつくったとすれば、報告いただけるとありがたいです。私からは以上です。

我々は、例えば山火事が起きます、津波が来ます、地震が起きます、交通事故が起きました、さまざまな自然災害等に対応していかなといけませんが、震度4になったら駆けつけて災害対策本部を開きますというくらいの覚悟が来ているのですが、学校も多分部活等様々な時点で出てくると思うので、是非お願いしたいと思います。以上です。

#### 教育委員会事務局長

只今の部分につきましては、教育委員会事務局から各学校に基本的な考え方、基本的な作り方の部分のマニュアルというのを出してあります。それをもって教育長からも各学校において、今取り組める部分を間断なく継続的に対応するということ、各校長先生及び教頭先生の集会のときに指導していただいております。

各学校においては、その内容をかみくだいて、自分たちなりのものをつくっておりますので、そちらの集約も含めて、進捗に合わせて皆様に情報提供を差し上げたいと思います。

#### 市長

かみ砕いてそれぞれつくるというのではなくて、起こる事態は別々なものだけれども、起こったときの初動体制をしっかりしておかないと、先生方が右往左往するんです。

マネジメントは校長先生にしっかりしていただくわけですけど、校長先生が必ず記者会見で頭を下げるような事態になるんだけれども、私はあれは好ましいことではないと思っています。学校としてはこういう危機管理をしていますと、その中でこういう対応をしてきましたということをもっと申し上げるべきであって、不幸な事態に対してはお詫び申し上げないといけない事態であっても、学校で危機管理体制がしっかりしていて、対応したことについて問題が本当にあるとすれば訴えられても仕方ないのだけれども、危機管理体制がこれだけしっかりしていて、皆さんにも行き渡っている中で、しっかり対応してきたときには、私は学校側の全責任にみたいなことにはならないんだと思うんです。だからしっかりマニュアル化をして欲しいなと思っていますので、

全校でこういう事態が起きたときにはこういう対応をしますということを、校長先生方に徹底してもらった方が、校長先生方が安心します。

教育委員会事務局長

承知しました。

教育長

いじめに限らず、学校ではそれぞれ人的事故、自然災害等に対する危機管理マニュアルはつくっているわけです。それぞれの学校の立地条件によって、色々それは対応しなければならない。ただ、いじめに関する危機管理については、中身はあるにはあったものの、それ程真剣に取り組んでいなかったというのも事実だと思いますので、それは今回の事案を踏まえて、しっかりとした対応はしなくてはならないと思っていますし、それは既にお示ししているところですので、まずこの調査結果を踏まえて、なおかつどのような背景だったのかも含めて、それらの報告を受けながら更に充実したものにしていかなければならないというふうに考えております。

市長

経過については、先生方からも委員の皆さんからも意見が出たとおりだと思うんですが、調査の経過は経過としてしっかり報告していただくのと、先程申し上げたマニュアル化の問題は危機管理として、しっかりやって下さいということなので、これらは同じ取り扱いではないわけですので、是非そういう対応をお願いしたいと思います。

大石教育長職務代理者

確かに普段の学校生活の中で、思いもかけないことが起こったときに、どうすればいいんだとなったときに、そこで若干のメンバーが集まって頭をひねるのも、もちろん大事ではあるんですが、市長がお話のようにとりあえずはこれをやれと、やった後で頭をひねるといった形のマニュアルがあれば、本当に学校の方では心強いと思います。

市長

先生方の安心感に繋がると思うのです。たまたまその学校で起きてしまったときのトップであったがために、全て何か罪人扱いをされて、記者会見で謝って、みんなからバッシングを受けるみたいな、それはちょっと違うと思うのです。だから、精一杯やっていて起きてしまった事故に対しては、こういう対応をしてきましたということをきちんと記者会見で申し上げて、本当に問題がなかったかどうかは調査の中で明らかになっていくと思うので、是非そういうことをやってもらった方が、先生方が働きやすくなると思うのです。

渡辺委員

私も元校長として、色々今回の件については、自分はどうだったかなというような感じで考えさせられることが多くありました。

常にいじめというのは、どこの学校でも起きうるものであり、絶対いじめはうちの学校ではありませんということはない。ですからやっぱりそこからスタートしていく必要がある。

教育委員会からのお話もあり、校長会等でも色々といじめ問題等について話題には

してきました。ですから、もう一度やっぱり再認識、再確認をしていかなければなら  
ないなということを強く思われる今回の事案でした。

ですから、今市長がお話しされたように、特定の学校がというものではなくて、も  
う一度各学校、そしてまた学校ばかりでなくて、地域、市民もそういったことに関し  
て注意深く、大事な子どもたちですので見守っていくということが必要でなかろうか  
と思っております。

市長

これからもしっかり経過報告はいただくということと、先程のような対応も合わせ  
てお願いしたいと思います。

他になければ、経過報告についてはこのような形でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

市長

ありがとうございました。

それでは、(3)その他ですけれども、事務局からその他の案件でございますか。

事務局

特にありません。

市長

委員の皆さんから、その他の件については是非ということがあればお受けしたいと思  
います。

(「なし」と呼ぶ者あり)

市長

ないようでございますので、本日協議を予定しておりました件については、全て今  
ほどのような結果ということでご了承いただければと思います。

それでは、進行役としてはこの場で解任させていただきます。

企画課長

それでは、長時間にわたりましてご協議ありがとうございました。

以上をもちまして、第1回 南相馬市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後2時30分 閉会